

平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	栃原岩陰遺跡縄文体験フェスティバル 2014
事業主体 (連絡先)	北相木村 (南佐久郡北相木村 2744 電話 0267-77-2111)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,181,116 円 (うち支援金 730,000 円)

事業内容

1 運営全般

- ・ 場所：北相木村役場前駐車場・公民館ホール・北相木村考古博物館・北相木村小学校校庭
- ・ イベント開催日：平成26年8月17日(日)
- ・ 全体参加者数(150名)
- ・ 午前中に講演会、午後には各体験を同時進行のかたちで行った。
- ・ 全体の運営は、北相木村教育委員会が行った。
- ・ 事前に、地元産のシカの角、骨をグラインダーなどで加工し、当日用いる釣針や、製作体験用の試作品・材料を作成した。
- ・ 尚、各体験等については、単なるエンターテイメント的なものにならないよう、それぞれに専門知識を持った講師を付け、教育的側面も重視した。



【発掘体験の様子】

2 研究者による講演会

- ・ 場所：北相木村中央公民館「しゃくなげホール」
- ・ 参加人数 約50名
- ・ 栃原岩陰遺跡の歴史的、文化的価値、特に今回は全体のテーマでもある、骨や骨製の遺物について、その意味や最新の研究成果を語って頂いた。
- ・ 講師 明治大学専任講師 藤山龍造氏
- ・ 演題 栃原岩陰遺跡と骨角器の世界

3 発掘体験

- ・ 場所：小学校校庭大型テント内
- ・ 事前に重機で土を掘り、中に用意した遺物のフェイク(石器・土器等)を入れた。
- ・ 当日は講師の指導に沿って、実際の発掘調査の疑似体験をした。

4 弓矢体験

- ・ 役場前駐車場
- ・ 弓矢や的はあらかじめ用意しておき、体験は随時行った。

5 釣り体験

- ・ 前日までの大雨により川が増水し、危険防止のため中止とした。

6 マイクロスコープによる骨角器の観察

- ・ 場所：博物館入り口ホール
- ・ 実際の出土品や7(骨角器づくり)で作った骨角器をマイクロスコープで観察し、考古学者の研究の体験をした。あわせて各種質問にも答えた。

7 骨角器づくり体験

- ・ 役場前駐車場テント内

(別記様式第12号) (第3の8関係)

- ・ 用意した骨、角等の材料を石などで仕上げ、革紐を通しアクセサリーにした。およそ 150 組が利用した。

8 広告宣伝活動

- ・ ポスター、チラシの作成、配布を行った。
- ・ 準備期間も含め、随時、村ホームページ、ブログへの掲載を行った。

9 その他

- ・ 縄文人が食していた食（豚肉と大豆を煮たもの）を提供し、当時の食文化を知ってもらい初めての試みだったが、予想以上に好評で、縄文の食文化の一端を広くアピール出来た。
- ・ 博物館の見学。約 150 名が見学した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 普段、博物館を単なる陳列の場所としか見てない近隣住民に、研究や体験の場としての存在意義を見てもらった。
- ② 講演では、栃原岩陰遺跡が縄文時代研究の上で非常に重要な位置を占めていることを力説してもらい、その歴史的価値を理解してもらった。

③講演会参加人数 目標 50 名 実績約 50 名

④イベント参加人数 目標 200 名 実績約 150 名

⑤博物館の利用者数の増加

目標年度 H25 年度対 H26 年度比 10%増

実績 H25 年度対 H26 年度比 52%増 (8 月末まで)

(参考：25 年度入館者数 590 名・26 年度 532 名(26 年 8 月末現在))

※天候により、かねてより人気の高かった縄文釣り体験が中止になり、事前にホームページ等で告知したが、今回初めての試みも含む講演、体験等に大勢の人が参加してくれたのは、大きな手ごたえであった。

【目標・ねらい】

- ① 博物館事業や研究者等の活動に対する、村民の理解を得る。
- ② 栃原岩陰遺跡の歴史的価値の周知。
- ③ 講演会参加予定人数 50 名
- ④ イベント参加予定人数 200 名
- ⑤ 博物館の利用者数の増加

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

これまでのところ、博物館の見学者、釣り体験参加者、研究者、一般村民、これらの接点がないまま、それぞれが博物館や遺跡を利用、あるいは利用せずに過ごしていたが、当イベントにおいて、この乖離を縮める努力をした。具体的には、講演会や骨角器の観察、発掘体験で、一般参加者には考古学の研究活動を身近に感じ、研究者側からは、市民と接することで数多くの刺激を受けたという感想を得た。

※自己評価【 B 】

【理由】

参加人数は予定より少なかったが、天候によるイベントの一部中止による影響を考慮すれば、決して少ない数ではなかった。参加者には楽しく学んでもらうことが出来、今後の様々な展開を望めるものとなった。

(別記様式第12号)(第3の8関係)

また、本事業により備品等の環境を整えることが出来、上記各体験が今後も続けていける「体験する博物館」として、施設の発展を図るものとなった。

以上の点から、新たなワークショップの方向性と、イベント等参加者のニーズを考えることが出来、来年度の「栃原岩陰遺跡発見50周年」に向け、新たなプランを練っている。

一案として、栃原岩陰遺跡50周年を総括したシンポジウム、宿泊を伴うような、考古学体験ツアーなどである。

また、今回得られたノウハウをもとに、新たなワークショッププログラムを、既に博物館で試験的に実践している。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある